会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会	会議場所 第2委員会室 全員協議会室	
		担当職員 三宅	
日 時	平成26年9月26日(金曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午後 4 時 58 分
出席委員	齊藤 中澤 福井 馬場 小島 菱田 日高 湊		
出席理事者	[産業観光部]山田部長、内田農政担当部長、[ものづくり産業課]野々村課長、[観光戦略課]奥村課長、[農林振興課]堤課長、内藤副課長 [まちづくり推進部]古林部長、橋本土木担当部長、[都市計画課]森課長、山内主幹、[土木管理課]柴田課長、澤田副課長		
出席事務局	藤村事務局長、阿久根副課長、三宅主任		
傍聴者	市民 名	報道関係者 名	議員 名

会 議 の 概 要

10:00

1 開会（委員長あいさつ）

2 事務局日程説明

10:12

[休憩]

3 現地視察

- ・排水路新設改良事業（野田排水路（篠町）
- ・城下町観光案内所（本町・町家カフェ）

出発10:15 ~ 帰着12:00

13:30 ~ 会議再開（場所：全員協議会室）

4 事務事業評価

[産業観光部入室]

- ・産業観光部長あいさつ

(1) 鳥獣対策事業

- ・農林振興課長 資料に基づき説明

~ 13:40

[質疑]

< 福井委員 >

被害の減少に係り、シカの個体数の状況をどのように把握しているのか。

< 農林振興課長 >

京都府の鳥獣保護計画の推計数値によると、シカは現在約5万2千～5万3千頭である。平成18年度に設定された当時の推計値では、約3万6千頭～4万4千頭であり、そこからのシュミレーションにより推計された数値である。なおイノシシについては現在約9万頭、サルについては約250～260頭であることを振興局で確認している。

< 産業観光部農政担当部長 >

シカ、イノシシについては、京都府域における頭数であり、サルについては、京都西ユニットとして、嵐山方面からの推計数値であることを補足する。

< 福井委員 >

シカの個体数把握は困難であることを察した。では、平成24年度比約35%被害が減少したことについて、どのような指標に基づいているのか。

< 農林振興課長 >

頭数の減少ではなく、各区に対しての被害調査に基づいたものである。

< 福井委員 >

シカの捕獲実績についても成果の指標としてもつべきである。

< 馬場委員 >

被害額については、農林作物の他、山林における下草等も含まれるのか。その範囲をどのように捉えているのか。

< 農林振興課長 >

各区から報告を受けている、各農家における生産物に対する被害額である。

< 馬場委員 >

他事業との連携体制は。

< 農林振興課長 >

防除柵については、国費事業として地元組織である亀岡市有害鳥獣対策協議会で実施する場合に補助が出やすく、地域ブロックでは、南丹・北摂鳥獣対策協議会において、大阪、京都、兵庫と連携する中で、国への要望等を行っており、市はその事務局として連携を図っている。また、バッファゾーンについても協議会等が主体となるものであるが、土地所有者への同意や10年間の地元管理等が前提となり、地元の意見等を踏まえて実施している。国費がつかない場合は、府費で対応している。

< 湊委員 >

被害額の積算根拠について説明を。

< 農林振興課長 >

米の場合、各農家における被害面積に対する被害額の一覧表があり、畑の場合は、作物の割り当てに応じた被害額が決まっており、それらを各区において集計し、市を通じて京都府に報告している。面積に応じた単価ということで理解願う。

< 湊委員 >

今後の方向性について、総合的な対策を示されているが、具体的にどのような考えか。

< 農林振興課長 >

主に、銃とわなで捕獲する計画であるが、最近の流れでは、銃が減り、わなが増えている傾向である。銃は細心の注意が必要であり、わなは毎日見に行くという手間がかかる。また、地域で意欲のある取り組みをしているところに対しては、猟友会

と連携し協力していきたい。よって、わなによる捕獲は今後増えていくものと考え
る。

< 湊委員 >

銃による場合、狩猟犬に無線を付けることに色々と制約があると聞くが、どのよう
にしているのか。

< 農林振興課長 >

確認していないが、適切にされているものと思う。

< 小島委員 >

被害額の減少について、防除柵等の対策によるものの関係は。

< 農林振興課長 >

防除と駆除とセットで対応しているものであるが、防除の場合、その地域では減少
するものとする。

< 日高委員 >

猟友会の活動範囲、会員数は。

< 農林振興課長 >

猟友会は全国的な組織であり、本市においては亀岡猟友会として、本市域内で活動
している。会員総数は、25年度で120人である。銃54人、わな63人で、亀
岡、東部、西部、南部、川東の5班体制で実施されている。

< 日高委員 >

免許取得補助に係り、1回あたりの試験料は。また、補助により受験者は増えてい
るのか。

< 農林振興課長 >

わな・網免許取得については、昨年度5名に補助したものであり、試験料は、新規
の場合5,200円、銃器をもっている場合は、3,900円である。その2分の
1を補助したものである。

< 菱田委員 >

山間部、里山で防除策等を設置した結果、市街地に降りてきている状況にあり、防
除すればするほど、別の被害が出てくる現状にあると思うが、そのあたりの対策は。

< 農林振興課長 >

防除柵は、一定、集落と山の際や集落を囲むように設置するようお願いしているが、
その間に川等があれば、そこから入ることも考えられる。山の広葉樹等の減少によ
り、まちに降りてくることも考えられることから、広葉樹の植林も合わせて進めて
いきたいと考えている。

< 菱田委員 >

今後、広葉樹を植林していくことは、森林保全の立場からもよいことと思うので、
ぜひ推進願いたい。協議会で設置している柵については、新たなわな付の柵に制度
が変わってきているように思うが、現状での普及、今後の見込みは。

< 農林振興課長 >

現在は、銃とわなによる捕獲を主なものとしている。新たな補助メニューが出れば、
協議会の意見を聞き、進めていきたいと考えている。

< 菱田委員 >

わな付の柵にすると、猟師でないと捕獲できないことから、有害鳥獣駆除として、
うまく連携して普及されるように要望する。

< 馬場委員 >

菱田委員の意見にあった広葉樹の植林に係り、政策として山全体を樹種転換してい

るところもあるが考えは。

<農林振興課長>

以前は杉、檜を植林していたが、木材市場の採算に合わず、材木の搬出が困難な現況であることから、複層林として有機的な山に変えていくべきことが指摘されているが、長期的なことであることから方向付けを示すことが難しい。

<馬場委員>

人里に出てこないよう、柴犬等による山へ追い払うような対策も有効と考えるがどうか。

<農林振興課長>

猟友会での対応は難しく、地域住民での対応となる。

<福井委員>

捕獲頭数について、他市町村と比較してどうか。

<農林振興課長>

比較にならないほど、南丹市、京丹波町の方が多い。

<中澤副委員長>

駆除が基本となることから、やはり対象頭数を把握して、それに対する目標を計画的に立てるべきと考えるがどうか。

<農林振興課長>

本来的には、有害鳥獣駆除は府県単位で進めているものであり、市町村はその手足のごとく動いているのが実状であり、山は陸続きであり、今日と明日とでは頭数は変わるのが現実である。その中で、本市における頭数把握は困難である。

<齊藤委員長>

時間の都合上、質疑はこの程度とする。

14 : 17

[評価]

<齊藤委員長>

事務事業評価表の集計を行う。

- ・評価1 目的設定は妥当である。
4人・ 3人
- ・評価2 公的関与の範囲は妥当である。
6人・ 1人
- ・評価3 手法は適切である。
5人・ 2人
- ・評価4 活動実績は妥当である。
4人・ 3人
- ・評価5 成果のとり方(指標)は適切か。
3人・ 4人
- ・評価6 十分成果があらわれている。
2人・ 5人
- ・評価7 コスト削減の余地はない。
6人・ 1人
- ・評価8 財源は適切である。
6人・ 1人
- ・評価9 公平性が評価できる。

- 5人・ 2人
- ・評価10 他事業との類似性、重複はない。
- 6人・ 1人
- ・評価11 事業を休止・廃止した場合の影響が大きい。
- 7人(全員)

[評価結果のまとめ]

< 齊藤委員長 >

以上の評価集計を踏まえ、評価をまとめていきたい。各委員の評価意見を求める。

< 福井委員 >

その前に、評価項目に があることについて、その理由を聞いてからでないと、総合的に委員会としての評価ができない。

< 齊藤委員長 >

今回は各項目につき の意見を確認していた。今回は特に の多い項目につき意見を求めたい。本事業では、成果のとり方について、 が最も多かった。その理由について意見を求める。

< 小島委員 >

成果のとり方について、地域の取り組みの度合いにより、被害額は変わるものであり、山から里山、里山から市街地へと被害が移っており、家庭菜園の場合は被害報告に表れていないのではないかと疑問視する部分がある。

< 中澤副委員長 >

駆除という基本的な部分から、対象数を明確にしておくべきである。

< 齊藤委員長 >

以上の意見は、改善すべき点としての意見でもあるが、個体数の把握は困難と考える。執行部としての意見はないか。

< 湊委員 >

当分科会での評価をまとめるにあたり、執行部へ意見を求める必要はない。

< 齊藤委員長 >

評価をまとめるにあたり、各委員の意見はないか。

< 福井委員 >

の意見もあるが、今後も必要な事業であることには間違いがなく、拡充が必要な事業であるが、どれだけ効果が上がっているのかという点が明確にならず、評価しにくいことから、ここでの評価は、現状維持になる。

< 湊委員 >

現場に行くのは猟友会が主であり、素人では手が出せないところがあり、これからも猟友会にお世話になっていかなければならない事業であることから、そこへ十分な手当てを配慮しないと、今後対策が得られない。よって、その点から継続・拡充とすべきである。

< 馬場委員 >

猟友会の高齢化等を改善するのは難しく、人と鳥獣の棲み分け等、他の事業も組み合わせ対応していく必要があることから、現状維持・改革改善が適当である。

< 日高委員 >

広葉樹の植林を含めて、拡充とすべき。

< 菱田委員 >

継続・改革改善とすべきである。既存の防除柵にもわなを併設する補助をして、捕

獲頭数を増やしていく対策も有効と考える。猟友会とも十分検討してほしい。

<小島委員>

地域によって取り組みの温度差があり、弱いところには被害がでる。家庭菜園者への被害も含め、全市的な取り組みが必要と考え、拡充とすべきである。

<中澤副委員長>

有害鳥獣被害は深刻な状況であり、予算措置がないと対策を実施できない事業であることから、その対策をしっかりとやっていくには拡充が必要であり、その中でしっかりとかたちあるものにしてもらいたい。

<齊藤委員長>

以上の意見から、評価結果は、継続・拡充としたい。広葉樹の植林による里山の改善等、他の事業を組み合わせることで総合的な対策を講じることにより、農林作物被害の防止、軽減に一層努められたいことを付け加えたい。 <了>

~ 14 : 35

[休憩]

14 : 43 ~

(2) 観光推進事業 (城下町観光)

・ものづくり産業課長 資料に基づき説明

~ 14 : 53

[質疑]

<湊委員>

城下町観光拠点として、この場所が適当とは言えないと考えている。本町自体の町並みの形成も変わってきており、人通りも非常に少ない。駅からも非常に遠く、交通の便も悪い。もっと人の行き来のあるところにあった方が、メリットが出せるのではないかという考え方を持っている。

また、亀岡の全体を見たときに、旧町が光らなければ、亀岡全体が光らないと考えている。その中でも特に祭りが一番のイベントであるが、光秀まつりは多くの見物客があるのに対し、亀岡祭は城下町の住民や観光客以外に、他町の市民はほとんど来られていないのが現状である。亀岡市民の認識として、旧町を盛り上げていこうというものに根本的にしていかなければどうしようもない。また、祭りはそれぞれの地域で風習があり、よその祭りには中々行きにくいという感もある。また、城下町には食事ができる店が少なく、民間の力がないと行政がいくら頑張っても話にならない。

以上の観点から、本町・町家カフェを利用して今後もしていくという考え方について、本当にそれでよいのかということについて、所見を求める。

<観光戦略課長>

駐車場やトイレは、観光地には不可欠であるが、本市では十分整備できておらず、考えていかなければならない。そうした中で、本町・町家カフェのような場所を2・3箇所を増やし、無人でもよいのでトイレができて、パンフレットの取れるような場所を増やしていく整備が必要と考えている。

市全体としては、まだまだ合併の影響が残っており、地元の祭りは地元しか知らない。亀岡の祭りを市民に見てもらおうことも大事と考えている。アンケートでは、亀

岡の三大観光においても、市民の3分の1程度しか経験がない。小学校の遠足でもトロッコ電車や保津川下りを体験してほしいという思いをもっている。

< 齊藤委員長 >

今の答弁では、本当にこれでよいとは思っていないということか。 < 了 >

< 湊委員 >

今回の事務事業評価は、城下町観光であるので、そのあたりを根本的に変えていかなければ、この事業がよいか悪いかを視れないのが、私の率直な気持ちである。

< 福井委員 >

駐車場もトイレもない中で、宝探しゲームをされて城下町のにぎわい創出に努められているが、正直、城下町だけではつなぎ止められないと考えている。そのことを思うと、宝探しゲームとは別に、もっと簡単に市内一円を車で回れるような仕掛けを考えていくべきと考えている。

< 齊藤委員長 >

質疑ではないが。

< 観光戦略課長 >

市内には色々なスポットがあるが、城下町という部分については、この事業でやっているということに理解願いたい。

< 菱田委員 >

以前、トロッコができ、三大観光を位置づけた当時に、亀岡の目玉として城下町にスポットを当て、城下町の祭りをクローズアップしたのが元々である。しかし住民にとっては、鍬山神社の祭りという認識が拭えない。そこを今、行政、観光協会がリンクしてうまくやってもらっている。一方、町家カフェ、駅前の観光案内所は点でしかない。城下町でその点を増やし、広めていくことが大事と考えている。おもてなしも十分ではないと考えるが、そのような取り組みについて、どのように考えているのか。また城下町の中に資料館が必要と考えており、一定の町にスポットを当てて全体を光らせるには、そのような構想をもつべきと思うがどうか。

< 観光戦略課長 >

そのとおりと考えており、今後、予算面を含めて協力して努めていきたい。九州、九重町の日本一の大吊橋は、町の予算の3分の1に当たる20億円をかけての事業で、年間30万人の見込みが100万人訪れ、1回500円、既に800万人訪れ40億円の収入である。そのような勝負をしてみたいとも考えている。

< 馬場委員 >

戦略の中で、城下町をどのように位置づけているのか。本町カフェは、近隣に豊かな資源があるので、よい立地であると考えている。その中で、車で回れる観光戦略をもっているのか、それとも町歩きの考え方をとるのか明確にすべきであり、城下町のどのような資源を活用しようとしているのか。とりわけトイレと食事場所は明確にすべきと考えているがどうか。

< 観光戦略課長 >

そのとおりであり、民間の力を利用するため、補助金制度等も考えていかなければならない。景観形成の上でも補助金制度は他市の事例でも見受けられる。本市では、既に町家は連担せず点在となっており、難しい面があるが、町家を保存できるような取り組みは必要である。私自身としては、町家だけが観光ではなく、新しい洋風の建物であっても観光につながるのではないかという考えをもっている。

< 馬場委員 >

住民の力をどれだけ引き出せるかという観点では、まだ不十分と考える。例えば町

家カフェにはうんちくを語る人が居てもよいのではないかと思う。そのあたりの人材の育成について所見は。

< 観光戦略課長 >

亀岡観光ガイドの会に期待している。過去に町家カフェでの運営を打診した経過もあるが、そこだけでは難しいという状況である。

< 日高委員 >

市ホームページに城下町の観光に係るページがなく、城下町の中でポイントとなるところがなかったら、わざわざ行ってみたいという魅力がない。また、必ずしも駅が拠点ということにはならず、車での来客に対応した道の駅は城下町内に必要と考えている。ここは外せないといった観光スポットはあるのか。

< 観光戦略課長 >

宝探しゲームでも紹介しているが、やはり城址やその町並み等をPRしていきたいと考えている。資料館は本当に城下町に欲しいと思う。他課のつくったものを観光がPRするという立場であるが、横の連携を図り努めていきたい。

< 小島委員 >

城下町観光について、地域住民の思いをどのように掴んでいるのか。

< 観光戦略課長 >

自治会役員や宝探しゲームの範囲内での商売人の話では、土日のお客さんが増えたという声を聞いており、好意的に受け止めている。

< 小島委員 >

地域の中には、人とふれ合いたいという思いを持っておられる方があり、地域のおもてなしを向上できるように、地域住民に向けた取り組みを要望する。

~ 15 : 20

[評価]

< 齊藤委員長 >

事務事業評価表の集計を行う。

- ・評価1 目的設定は妥当である。
7人(全員)
- ・評価2 公的関与の範囲は妥当である。
5人・ 2人
- ・評価3 手法は適切である。
2人・ 5人
- ・評価4 活動実績は妥当である。
4人・ 3人
- ・評価5 成果のとり方(指標)は適切か。
2人・ 5人
- ・評価6 十分成果があらわれている。
7人(全員)
- ・評価7 コスト削減の余地はない。
3人・ 3人・ × 1人
- ・評価8 財源は適切である。
5人・ 2人
- ・評価9 公平性が評価できる。
1人・ 5人・ × 1人

- ・評価 10 他事業との類似性、重複はない。
7人(全員)
- ・評価 11 事業を休止・廃止した場合の影響が大きい。
3人・ 4人

[評価結果のまとめ]

< 齊藤委員長 >

評価項目6の十分成果があらわれているかについて、全員がであった。これについて意見は。

< 菱田委員 >

城下町観光としては、駅前の観光案内所と本町町家カフェの2箇所しかアピールするための施設がないことから、これらの点を増やしていくべきであり、予算上厳しいとは思いますが、向上させるための努力を求めたい。

< 福井委員 >

大きな観点で言うと、本当にずっと城下町にしがみついてやっていっていいのかというところを考えると、にせざるを得ない。

< 中澤副委員長 >

目的の中に、城下町住民や地元商店街と連携し、にぎわいを創出するとあるが、結果的に実績として表れていない。地元住民が積極的であれば、景観形成が提案され、これまでと違った動きがでてくることも踏まえ、十分成果が表れているとは言い難い。

< 湊委員 >

貴重な亀岡祭があるにもかかわらず、住民の意識が伴っておらず、城下町観光としてイコールになっていない。城下町観光が上滑りとなって、住民に浸透していないように感じるので、根本的に考え方を变えて、住民、民間の力を借りてやるべきと考える。

< 日高委員 >

成果は取りにくい。もっと地元が盛り上げるような活用を考え、町家カフェも観光協会ではなく、地元の人が運営する形態にした方がよいように感じた。

< 小島委員 >

地域住民との連携が不可欠である。リピーターや地元の満足感が城下町観光へのつながりとなる。

< 馬場委員 >

まちの魅力を発信しきれていないと考えている。それぞれの町の住民はその町に誇りを持っているが、亀岡全体となったときにトーンが変わる。共通して亀岡の良さを発信していくことが必要である。ただし、観光事業として宝探しゲームは、よく考えられた内容である。

< 齊藤委員長 >

評価をまとめていきたい。意見は。

< 菱田委員 >

継続・拡充。予算措置の問題はあるが、積極的に他の部署と連携して進めることでより良い効果が期待できる。

< 小島委員 >

継続・拡充。ハード面の整備とともに、地域住民との連携を高める方策も行政が主導となって取り組まれない。

<馬場委員>

継続・拡充。くじ取り式にみるように、鉾町の方々は一つにまとまっており、情報発信も加えて拡充の方向で進めてほしい。

<福井委員>

継続・現状維持。正直、素晴らしい財産があることは認めるが、観光に限らず旧城下町にお金をかけすぎである。周りの方々はあそこばかりお金をかけるのに何もよくなっていないというように思われているのが現実である。今後、拡充してそこへさらに予算を投入しても乖離するばかりで、亀岡全体の底上げにはならないように考えている。あえて私の意見として申し上げておく。

<日高委員>

継続・拡充。亀岡祭をきっかけとして、再度寄ってもらえるような拡充を期待する。

<湊委員>

継続・改革改善。旧亀岡が光らなければ亀岡全体が光らないことが根底にあり、地元、民間活力がないとこれ以上の広がりはないことから、そのあたりを求めたい。PRについては、議員を含め、広く全国に行かれる方にパンフレットやDVD等、示してもらえたら、協力できることはあると考える。

<中澤副委員長>

城下町は亀岡観光にとって重要な資源であるが、景観形成上、地元住民の理解が得られない状況の中で、城下町観光を中心とした観光振興策は限界があるのではないかと考える。1年を通じて、観光のメインとなる創出は困難であると考えている。ただし、町家カフェで入込客を図るのはよい狙いであり、もっと特化してあと2・3箇所設けるような努力は必要である。最終的にそれができないようであれば、一定限界があるように思うので、改革改善の中で、無理なようなら廃止にすべきであるが、当面は、現状の経過を見る中で、少なくとも継続が適切であろう。

<齊藤委員長>

ここで、担当部の意見を求めたい。

<観光戦略課長>

多くの予算がある中で、事業費167万2千円の本事業を取り上げて、亀岡全体の観光についてご意見をいただいたことに感謝する。

<産業観光部農政担当部長>

鳥獣対策事業について、意見を申し上げる。地域こん談会においても、特に中山間周辺地域においては、ほとんどとっていいほど、有害鳥獣対策が懇談事項にあがっていた。その期待に応えていかなければならず、改革改善は当然のことと受け止めている。その中で、捕獲という部分では亀岡猟友会にほとんどをお願いしている状況であり、近隣市の委託補助も十分参考にして検討していきたい。防除の面からも、捕獲と合わせた事業展開を研究していきたい。新たな捕獲・防除の方法についても検討し、農家の再生産意欲を減退させないように、今後も努めていきたい。

<産業観光部長>

商店街等の消費拡大につなげるために城下町観光を打ち出した経過、トイレの確保、観光案内所としての機能、施設管理167万円の事業を踏まえて、費用対効果を考えると、がんばってやっていることを自負しており、城下町観光に必要な施設であると考えている。今後、ブラッシュアップ、地域住民との連携、にぎわい創出に向けた仕掛けづくりを継続して取り組んでいきたい。

<齊藤委員長>

継続・拡充の意見が多くあったので、そのように評価することとする。

宝探しゲームのように市内にばらつかせるような施策は効果的であり、もっと拡充して、商店への経済効果を上げるように期待したい。湊委員の提案であったDVD等の活用は、亀岡に来られるバスでの使用も効果的である。今後とも効果が上がるように継続して努められたい。

<産業観光部長>

今後、観光施策に係り、常任委員会との意見交換の機会をもてることを願う。

[産業観光部退室]

~ 15 : 50

[休憩]

16 : 00 ~

[まちづくり推進部入室]

(3) 排水路新設改良事業

- ・まちづくり推進部長 あいさつ
- ・土木管理課長 資料に基づき説明

~ 16 : 10

[質疑]

<湊委員>

三宅排水路の改良工事については、里道部の施工であるが、ここでしか施工できなかったのか。

<土木管理課長>

(資料に基づき説明)

施工箇所が狭小であったため、里道部を利用してバイパス化したものである。

<福井委員>

25年度予算に比べて平成26年度予算が少ないがその理由は、

冠水常襲地が28カ所と聞いているが、その資料はあるか。

<土木担当部長>

添付の資料は、水害常襲地28カ所の工事施工箇所として示したものである。

資料のとおり、25年度事業のうち4件を本年度に繰り越していることを踏まえ、今後繰越が生じないように、若干事業量を減らしている。また、26年度に実施すべき事業を25年度に前倒して実施したのも含まれており、今後、雨水排水計画の検討に入ることも踏まえ、今回施工箇所として示しているのは、緊急の工事対応分として実施したことを理解願いたい。

<福井委員>

資料の一覧は、工事施工箇所として理解したが、庁内会議において特定した水害常襲地の一覧があれば、今後、提供願えたらありがたい。

<土木担当部長>

総務部からの提出になるかと思うが、その旨を伝えておく。

<菱田委員>

今後の課題として、全体的な面的計画を立てる中で、どのようにつなげていくのか

- というところが大事である。例えば雑水川改修の後にどうするのか、先手を打てるところはやってもらいたいと思うが、今後の計画についてどのように考えているか。
- <まちづくり推進部長>
- 我々も今後の課題としている。やはり局部的な排水改良では、十分な効果が得られない。ただし今回は、24年度のゲリラ豪雨に伴う緊急対応として、排水路を優先的に改良したものである。庁内会議においても当然、そのような議論があるが、今後十分に精査し、計画を見直す中で、順次排水区ごとに事業実施していく方向付けをしている。
- <馬場委員>
- 内丸排水路の工事内容は、資料によって、W1200・H1000、W1500・H1200と記載が異なるが、どちらが正しいのか。
- <土木管理課長>
- W1200・H1000が正しい。水害対策施工箇所一覧の記載は誤っており、申し訳ない。
- <馬場委員>
- 見晴排水路等、繰越事業箇所の工事内容について、その工事断面で流下能力上問題はないのか。
- <土木管理課長>
- 基本的には前後の排水能力を含め、改良工事として計画しているものである。
- <馬場委員>
- 財源について、地域の元気臨時交付金を充てているが、今後の見通しは。
- <まちづくり推進部長>
- 元気臨時交付金は、河川改良等に充当もしており、排水路分については10分の10を充てている。国の予算の範囲内における配分であり、24年度大型補正における軽減措置として設けられたものである。今後、地方財政が圧迫されると国において判断されたときには、継続されると思われる。
- <中澤副委員長>
- 地域での維持管理、対応に関して地元へ補助金を交付する手法はどうか。
- <まちづくり推進部長>
- 地域の活動はソフト分野になると思うが、土嚢等の資材支給等の延長として活動していただくものとする。
- <中澤副委員長>
- 冠水常襲地として、地元に対して日常的な管理や緊急時の対応等をお願いしなければならない。補助金支給としての施策を講じる余地があるのではないかと考える。土嚢等の支給に関しては別の予算措置があるのか。
- <まちづくり推進部長>
- 総務部の対応として、自主防災会等を通じて実施している。
- <小島委員>
- 今回の対象5事業について、先般の8月豪雨、台風11号に伴う状況はどうであったか。さらなる改良が必要な箇所もあったのか。
- <土木管理課長>
- 局所的な改良であったので、短時間の雨量で判断すべきと考えており、24年のゲリラ豪雨では時間雨量88mmあったのに対し、25年の台風18号では47mm程度、今年の台風11号では48mm、8月16日豪雨では58mmが最大雨量であり、浸水は発生するような状況ではなかった。

[評価]

< 齊藤委員長 >

事務事業評価表の集計を行う。

- ・評価 1 目的設定は妥当である。
6人・ 1人
- ・評価 2 公的関与の範囲は妥当である。
7人(全員)
- ・評価 3 手法は適切である。
5人・ 2人
- ・評価 4 活動実績は妥当である。
7人(全員)
- ・評価 5 成果のとり方(指標)は適切か。
6人・ 1人
- ・評価 6 十分成果があらわれている。
7人(全員)
- ・評価 7 コスト削減の余地はない。
6人・ 1人
- ・評価 8 財源は適切である。
7人(全員)
- ・評価 9 公平性が評価できる。
5人・ 2人
- ・評価 10 他事業との類似性、重複はない。
6人・ 1人
- ・評価 11 事業を休止・廃止した場合の影響が大きい。
7人(全員)

[評価結果のまとめ]

< 齊藤委員長 >

以上の評価集計を踏まえ、評価をまとめていきたい。 をつけた理由等について意見を求める。

< 中澤副委員長 >

そもそも事業選定として適切かどうかを分科会で議論してきた経過があるが、その中で、総務、まちづくり、上下水それぞれの部門が連携して全体計画をしっかりとしたものにしていくべきことが前提にあった。よって、当該事業として評価するには、その全体計画が不透明であるため、各項目に をつけたものである。

< 菱田委員 >

手法の適切性について をつけたが、中澤副委員長の意見のとおりであり、やはり全体をおさえた上で実行していくことが大事である。25年度の事業としては、緊急的に対応した内容として評価できるものであるが、今後を踏まえると、全体計画をしっかりと立てることを求めている。継続・拡充である。

< 馬場委員 >

当該事業の目的設定は妥当であるが、近年の気候変動の中で、時間雨量、総雨量の何mmに対応するのか、それが見えてこない。気候変動の進行状況を踏まえると、

もっとスピードを上げて取り組まないと大変な事態となると危惧している。ここだけで成果をとれるものではないと思い、成果のとり方に を付け、公平性についても施工外の地域住民から不公平感を招き得ることから とした。全体評価としては継続・拡充である。

< 湊委員 >

継続・拡充。色々な意見が出ているが、あくまでも土木管理課が行った事務事業として、局地的な豪雨被害により、施工できる箇所から対応したものである。根本的に雨水排水計画は上下水道部でもっており、町によっては、大規模な排水計画が必要で今後の大きな課題となってくる。当該事業は主に道路排水として早期に着工されたものとして高く評価し、より一層きめ細かな対応を望むものである。

< 日高委員 >

継続・拡充。施工箇所について、昨年、今年の豪雨でも浸水はなかったということで高く評価したい。

< 福井委員 >

継続・拡充。当該事業に沿った評価としては全て である。他の意見にあるように全体的な計画が明確になることを望んで選定したことも踏まえての評価である。

< 小島委員 >

継続・拡充。午前中の現地視察で確認したが、かつては、昨年・今年の豪雨でも冠水していた常襲地と思われる。できるところから進めてきたことも踏まえ、今後より拡充して事業実施されたい。

< 齊藤委員長 >

中澤副委員長の評価はどうか。

< 中澤副委員長 >

先ほどの意見を付しての継続・拡充である。

< 齊藤委員長 >

以上の意見を聞いて、まちづくり推進部からの意見はあるか。

< まちづくり推進部長 >

各委員の意見を踏まえ、今後の施策に生かしていきたい。中々ハード面だけでは、水害対策に十分対応できるものではなく、市民の皆さんとともにソフト対策、減災に主眼をおいた対応が必要である。当部としては、河川改修で追いつかない部分を上流側の排水抑制で対応するため、歩道部を透水性舗装にすることや緑地を増やす等、総合的な流出抑制対策を進めていくことも必要と考えており、今後ともよろしく願います。

< 齊藤委員長 >

継続・拡充の評価とする。異常気象の増加等を踏まえた事業選定であり、所管部としては今後とも継続的に事業実施に努められるよう望む。また、住民の協力を得たソフト対策、全体計画の進展を合わせて望むものである。

[まちづくり推進部退室]

~ 16 : 42

4 討論・採決

[討論]

< 馬場委員 >

第10号議案、第14・18・19号議案に反対。

第10号議案については、気候変動に対応したまちづくりを進めていく状況にあるにもかかわらず、大規模スポーツ施設の具体化にシフトしていくことが前提にあり、矛盾している。14、18、19号議案については、経営努力を評価するが、大幅な料金・使用料改定により水需要の減少は明らかとなっている。公営企業会計だけでなく、様々な施策により支援できる体制整備が必要である。

< 湊委員 >

全議案に賛成。災害復旧に早期に対応し、概ね適切な執行状況である。大規模スポーツ関連は、常襲地には桂川改修により改善が図られ、駅北地区については、地権者主導で事業実施されている以上、行政も責任を持って支援するのは当然である。

< 小島委員 >

全議案に賛成。突発的な災害にも対応し、限られた予算の中で、それ以上の施策の効果が見られた。

< 福井委員 >

全議案に賛成。国の大型補正に伴う繰越事業もある中、適切な執行に努められた。

< 日高委員 >

全議案に賛成。各事務事業は適正に執行されていた。

< 菱田委員 >

全議案に賛成。突発的な災害対応もあった中、適切な執行であった。

[採決]

(1) 平成25年度亀岡市一般会計決算認定 (第10号議案) 所管分

賛成多数・認定 (反対 : 馬場委員)

(2) 平成25年度亀岡市簡易水道事業特別会計決算認定 (第12号議案)

賛成全員・認定

(3) 平成25年度亀岡市地域下水道事業特別会計決算認定 (第14号議案)

賛成多数・認定 (反対 : 馬場委員)

(4) 平成25年度亀岡市上水道事業会計決算認定 (第18号議案)

賛成多数・認定 (反対 : 馬場委員)

(5) 平成25年度亀岡市下水道事業会計決算認定 (第19号議案)

賛成多数・認定 (反対 : 馬場委員)

[指摘要望事項]

< 事務局 >

決算特別委員会における指摘要望事項は、全体会の中で協議の上、本会議における委員長報告の指摘要望事項又は附帯決議により行われるものであり、それを踏まえた上で、当分科会として全体会に報告すべき事項があるのか協議願いたい。

< 馬場委員 >

附帯決議として、気候変動に対応した災害に強いまちづくりを推進するよう要望することは、立場の違いを越えて一致できるので、当分科会から提案してはどうかと考える。

< 湊委員 >

附帯決議としての事項ではなく、当分科会の委員長報告の中で盛り込む程度でよいのでは。

< 齊藤委員長 >

それでは、委員長報告の中で、今の意見を盛り込むこととする。委員長報告については、正副委員長に一任願う。 < 了 >

~ 散会 16 : 58